

## 英国テックスプリントデザインアワード2005 —パリブルミエールビジョンにジョイントされたインディゴ展— TDA会員 梶原加奈子さん 受賞



梶原 加奈子氏  
RCAテキスタイル科教授  
Clare Johnston氏



英国には「テックスプリント」という新人テキスタイルデザイナーのビジネススタートを補助する組織がある。毎年テキスタイルデザイナーを目指す700名ほどの学生の卒業制作の中からそれぞれの学校の教授、企業やフリーランスデザイナー達によって25名を選考し、パリのインディゴ展への出展権利を与え、デビューさせるのが恒例となっている。この組織は34年の歴史があり、現在はヨーロッパの企業44社に支えられている。また、25名の中からさらに審査を経て、織物、ニット、プリント、カラー、ブレーキング・ニュー・グラウンドの5部門で1位を選び、その5名は香港インタースタッフ・アジア展の参加権利も与えられる。その中で、既存概念を超えた新しい発想を評価するブレーキング・ニュー・グラウンド賞を獲得したのが、日本人では初めてという梶原加奈子さんだった。

受賞作品は、多重織リジャガードによるレイヤードのドレス。1枚の布の表と裏は異なった色柄で、布をめくるとまた別のモチーフが現れる。ドレスは無縫製で、布同士は織りの組織ですべて繋がっている。1着で色柄を思いのままに変えられる、スタイリングも自由自在な服を創りたかったという。

梶原さんは、多摩美術大学出身、イッセイミヤケでテキスタイルデザイナーとして3年半勤務し、03年に渡英。ロイヤル・カレッジ・オブ・アート大学院（RCA）を卒業。現在東レ・ヨーロッパやスペインの織物会社とコラボで新素材開発の研究、デザインを担当。英国のバック会社やNYのインテリア会社にもカラーコンサルタントをしたり、プリント柄を提供している。

今後は未来を見据えてのテキスタイルの創造を追い続け、時代をつかむ感性を鍛えるためにも世界中の工場と共に商品開発をしたいという希望がある。いずれテキスタイルからオリジナル発信するトータルな自分のブランドを設立したいという夢を語ってくれた。大いに期待し、応援をしたいと思う。

（滝口 洋子）